

「ゆずりあい 道路で示す 日本の美」

～令和3年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品を決定しました～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を特に推進することにより、道路を利用する国民に、道路とふれあい、道路の役割や重要性を改めて認識していただき、道路を常に広く、美しく、安全に利用していただくことを目的とした運動を実施しています。

期間：8月1日～8月31日

主催：国土交通省

後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛：104団体（教育機関、ボランティア団体、報道機関等）

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な公共施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その役割や重要性が見過されがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の活動の一環として、昭和41年より毎年、広く一般から「道路ふれあい月間」推進標語を募集しております。56回目を迎える本年は、全国から3,713作品もの応募がありました。

応募作品について、推進標語審査懇談会の三好礼子氏（エッセイスト、元国際ラリースト）、やすみりえ氏（川柳作家）、吉岡耀子氏（交通・環境ジャーナリスト）の3名の委員による選考を経て、[小学生の部] [中学生の部] [一般の部] の部門毎に、最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品を決定しました。

入選作品の標語は、令和3年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

◆審査委員◆【総合選評】



三好 礼子 委員

続くコロナ禍の中で、一生懸命生きてきた私たち。道路を通して、やはり地球上の人や自然への応援歌のような標語が多く、全てを見終わって、とても元気をいただきました。ありがとうございました。

言葉は、たとえ短くてもエールをもらったり奮い立たせたりする魔法の道具。標語を見た方が、人や自分や自然にもっと優しくもっとたおやかになれたら素晴らしいなど改めて思いました。個人的には「ポイ捨てしたら俺泣くよ」

が一番驚いた作品でしたが、こんな自由さで作ってみると更に楽しいかもしれませんね。みなさん、自分だけの表現と感性で次回も挑戦して欲しいです。

◆令和3年度の入選者・作品◆

最優秀賞（3作品）

【小学生の部】「ゆずりあい 道路で示す 日本の美」

長根 蒼依さん（埼玉県 三郷市立彦郷小学校）

（三好委員）「示す」と「美」が濃くして、まるで書道のような美しい標語ですね。「お・も・て・な・し」の道路バージョン？小学生の方の作品ですが、なぜか妙齡の女性を思い描いてしまいました。だからという訳ではありませんが、誰の心にもずっと入ってきて、素直に「美しい道をみんなで守り続けていきたいな」と思わせてくれます。

（やすみ委員）しっかりとした言葉遣いが印象的な標語です。小学生の部でこのような凛としたメッセージに出会えるとは良い意味で驚きでした。日本文化の素晴らしさはさまざまな角度から語られますが、この「ゆずりあい」もそれを表すひとつですね。慌ただしい毎日の中でも「お先にどうぞ」という感覚を忘れずにいなければ、と思わせてくれる作品です。

これからも、道路でたくさんの「ゆずりあい」の輪が広がっていくことが望まれますね。

（吉岡委員）小学5年生*の作品で、今年代表標語に選出されました。コロナ禍でがまんすることが多い日々、「ゆずりあい」の心が育っていったのでしょうか。感じている思いが素直に表われたような、耳にも目にも優しい標語です。道路へ、日本の美へと気持ちが広がっていくようで、8月の道路ふれあい月間に全国で見られるのが楽しみです。*応募当時

【中学生の部】「この町の 歴史と笑顔をつなぐ道」

姚 知己さん（栃木県 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校）

（三好委員）歴史という縦軸に笑顔の横軸が交差する「すてきな空間」と「気持ちのいい道」が、目の前に広がりました。静かなトーンなのに、フレッシュさと躍動感があり、とても好感を持ちました。「つなぐ」からは、今だけでなく未来への期待も伝わってきます。自分の町を愛することが第一歩なのかなと改めて思いました。

（やすみ委員）若い世代の人が自分の暮らす町の歴史に思いを馳せ、また、未来への希望を輝かせようとする心情が込められた素敵な内容です。特に「つなぐ道」とまとめた部分が標語としての完成度の高さをもたらしたように感じます。加えて、「歴史と笑顔」という言葉からはいくつもの人間模様が想像できます。私たちの生活に寄り添う道路が、とても大切なものとして描かれた標語なのではないでしょうか。

（吉岡委員）初めの言葉「この町の」からは人々の暮らしが伝わってきて、ぬくもりのある標語になっています。作者は中学生で歴史に興味があるのでしょうか。町の成り立ちやできごと、そこに生きた人々など、時間と空間をたどって行くのは楽しいもの。友達や道行く人々の会話が流れ笑顔あふれる、そんな町が思い描かれていて、道が生きているようです。

【一般の部】「ポイ捨てしたら俺泣くよ」

荻澤 輝さん（兵庫県 神戸学院大学附属高等学校）

（三好委員）衝撃が走りました。このストレートで胸に響くワンフレーズは何？俺＝道路の悲しみがこれほど伝わる句はなかなかありません。高校生の作品ならではでしょうか、この思い切りに思わず拍手。どんな暮らしをしてどんな将来を描いているのかなども気になりました。

この先も周りに素敵なインパクトを与え続けて欲しいです。それにしても、自由でいいなあ〜。（やすみ委員）インパクトのある作品で、審査懇談会でも話題をさらった作品でした。無難なところへ着地せず、チャレンジ精神が前面に感じられるフレーズを持ってきたのですから脱帽です。道路の美化を伝える言葉が、恋愛のフシンのセリフとも重なっているのですから・・・面白いものですよ！標語にもちょっとした遊び心、あるといいですね。

（吉岡委員）生き生きとした表現に目を見開きました！アニメ時代を感じさせる動きのある言葉で、伝えたいことをダイレクトに訴えます。

5・7・5の音並は日本人の身についたリズムで、俳句や川柳だけでなく標語でも圧倒的に多く使われていますが、今回はそこから離れて自由で、また道路を「俺」と擬人化しているのも新鮮です。

《最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった

「ゆずりあい 道路で示す 日本の美」を今年度の代表標語とします。》

優秀賞（6作品）

【小学生の部】

「この道を たどっていけば 風通る」

倉智 詩子さん（岐阜県 土岐市立瀧南小学校）

「この道が あるから会える つながれる」

山本 希未さん（京都府 ノートルダム学院小学校）

【中学生の部】

「ゆずり合い 目と手で交わす 合言葉」

白波瀬 芽祈さん（兵庫県 神戸学院大学附属中学校）

「さわやかな 花と笑顔が 道に咲く」

田中 花音さん（埼玉県 ときがわ町立都幾川中学校）

【一般の部】

「踏みしめる あなたにエール 今日の道」

馬場崎 美智代さん（大阪府 高槻市）

「ありがとう いい朝 いい道 いい笑顔」

安田 健治さん（北海道 千歳市）



やすみ りえ 委員

コロナ禍で一変した私たちの暮らし。その中にある「道路」にも、ここしばらくの皆さんの気持ちが重なったような標語が多く寄せられたように見受けました。例えば、「会いたい」「繋がり」「支える」といった言葉がそれを代弁しているように思いました。

また、今年度は学校単位での応募も多かったです。若い世代の方の標語もとても魅力的でした。「道路」はどんな時代にも、私たちの暮らしと共にあり続け、人の心を映すものなんですね。



吉岡 耀子 委員

自粛生活の中で言葉と向き合う時間ができたのでしょうか。今年は例年を上回る応募数でした。コメントした3作品以外に優秀賞も見逃せません。

たとえば、小学「この道をたどっていけば風通る」はさわやか、中学「ゆずり合い目と手で交わす合言葉」は的確で、

一般「踏みしめるあなたにエール今日の道」は暖かさが印象的です。道の標語を考え、生活や友や夢を考えて、心豊かになっていくようです。

＜お知らせ＞